



環境リーダーNews

特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報」
ホームページ <http://kankyo-leader.org> (刷新予定)

2018 10/28

Vol.104

季刊発行 秋号

特集：大地からの放射線…3面
連載：会員活動紹介…10面



「夏休み子ども環境体験教室」会場

神奈川県環境科学センター

夏休み子ども環境体験教室

環境科学センター担当 濱辺謙吉

恒例の「夏休み子ども環境体験教室」は、当会主催、環境科学センター共催にて7月30日(月)から8月3日(金)までの5日間に、全10教室を同センターで開催しました。小学校高学年(4年生～6年生)を対象に参加者を募集した結果、県内の17市町から延べ374名の方々にご応募頂きました。定員を超えた教室は厳正な抽選を行い、延べ196名の小学生とその保護者及び同伴者、全319名の方々が参加して下さいました。教室は「人工の雲を作ろう」、「つかめる水を作ろう」、「身近なもので電池を作ろう」、「森の木エクラフトで森を考えよう」、「汚れた水をきれいにしよう」、「手づくり顕微鏡で生き物を観察しよう」、「見えない空気

について実験で調べよう」、「発泡スチロールでオリジナル表札作り」、「環境地球儀を作ろう」、「太陽の光で回るソーラー風車を作ろう」です。今年は新しい教室が2つ加わり、多分野に亘る豊かな内容になりました。新しい教室の内、「つかめる水を作ろう」はとても人気が高く、定員の4倍を超える応募がありました。

この教室は「かながわサイエンスサマー2018」の参加事業として開催致しました。また、一般財団法人「セブン・イレブン記念財団」の補助を受けました。

一部の教室は「神奈川県地球温暖化防止活動推進センター」との共催で行いました。2つの教室の様子は、地元の「FM 湘南ナバサ」から放送されました。



手でつかめる不思議な“水”



ペットボトルの中に“雲”



備長炭を繋いだ“直列電池”



森の素材で“工芸作品”



太陽の光で回る“ソーラー風車”



見えない空気の“蓄熱実験”



自分の“表札”



手作り“顕微鏡”



水の“浄化実験”



“環境地球儀”

県立青少年センター 青少年のための科学の祭典

廃棄物部会長 石井 榮

「青少年のための科学の祭典」が横浜市桜木町の青少年センターにて8月12(日)開催され、当会からは恒例の「挑戦！君は自分で自分を持ち上げられるか？」をテーマに出展しました。午前中は来場者が少なく手持ちぶたさの状態でしたが、午後になって来場者が増え、当会のブースに104名が来場、夏休みの元気な子どもたちが自分持ち上げに挑戦してくれました。

この自分持ち上げ体験は、「パスカルの原理」を応用したもので、自動車のブレーキ・システムや重量物を持ち上げるジャッキなどに用いられているものです。

その原理の応用は、小口径のストローと大面積のごみ

袋を密封接続し、ストローから息を吹き込み、ごみ袋をマット状に膨らませて、膨らむ厚さで重量物を持ち上げるものです。ストローの口径面積とごみ袋面積の比率でパワーアップさせるもので、応用セットでは、呼吸の力の約1万5千倍の重量を持ち上げることができます。

子どもたちは、自分でストローとごみ袋をガムテープでつなぎ、圧力テストの後、ごみ袋のマットに乗ってストローから息を吹き込み、自分持ち上げに挑戦しました。更に、お父さんやお母さんをも持ち上げることに挑戦し、その成果として、持ち上げた重量の値を記入した「認定証」を受け取って嬉しそうに持ち帰りました。



当会の出展「自分持ち上げ」会場の風景



自分持ち上げに挑戦

県立産業技術総合研究所 藤沢市立高谷小学校

グリーン部会長 柳川三郎

9月12日(水)、藤沢市立高谷小学校5～6年生の理科クラブ25名に対して「なるほど！体験出前教室」を行いました。テーマは「人工の雲づくり」。この授業は、ペットボトルの中に「人工の雲」を作る実験を通して、自然界の水の循環や役割を体験的に学び、水を大切に使うことを動機づけることが目的です。授業では、人

間が生きるために必要な水の条件や雲ができる現象について、画像やクイズも交えて解説しました。理科クラブの子どもたちとあって、地球温暖化や気象変動について良く理解されていて、雲の発生などについても強い関心を示してくれました。

人工の雲づくり実験では、ペットボトルの中の温水を入れ、手で加圧と減圧を繰り返し、減圧の際に温水が蒸発して白い雲ができることを実感しました。



高谷小学校での「人工の雲作り」授業の風景



水を大切に使うことを解説



人工の雲ができた

Leader's TOPICS

大地からの放射線

自然環境部会、エネルギー部会、理学博士 石原靖文



福島第一原子力発電所の事故から7年以上たちます。事故後マスメディア上で毎日見られた放射線や被ばくなどの言葉も、最近あまり見られなくなりました。放射線については、メディア上に多くの情報がありますが、本稿では、自然放射線うち大地からの放射線についてお話しさせていただきます。放射線とは、ガンマ線、エックス線等の電磁波やアルファ線、ベータ線等の粒子の流れの総称です。放射線には、物質の中を通り抜けたり、物質の中でエネルギーを放出する作用があり、この性質が工業、医療等の幅広い分野で利用されています。私たちの住む地球は約46億年前に、宇宙空間に漂うたくさんのチリやいん石が集まって、一つの塊となったものです。宇宙のチリの中には、放射線を出す物質があって、地球誕生の時から既に放射線が地面から出ていたと考えられています。それ故地球には放射線を出すものが今でも存在しています。それが大地からの放射線と呼ばれるものです。

皆さんが住んでいる街にも、学校や公園にも、大地のどんな場所からでも、自然放射線が出ています。日本各地の地面から、どのくらい放射線が出ているのか都道府県ごとの値を、図1に示します。これから、日本国内でも放射線の多いところ、少ないところがあるのが分かります。次に世界を見てみます。(図2) 世界には、イランやインド、イタリアの一部のように、自然放射線の

量が多いところと、反対に少ないところがあります。

そして、放射線が多い地域にも、人は活動しています。同じ地球なのに、どうして場所によってこんなにちがいがあのでしょうか。それは、地面にある、石や岩、土などによって、出る放射線の量に違いがあるからです。土や岩石には、ウランやカリウムなどが含まれています。これらから、アルファ線、ベータ線とガンマ線が出ています。石も、いろんな種類があり、放射線の量は、花崗岩が多くて、石灰岩が少ないことが示されています。花崗岩は、お墓や石碑や建物に「御影石」として使われています。

牧草地や畑に利用される土(黒ボク土)と水田に利用される土(灰色低地土)では、畑の土の方が、水田の土に比べて放射線の量は少ないことが示されています。土は、もともと岩石が細くなってできたものだから、その場所の土や岩石の種類が、地面からの放射線の量に関係しています。日本における大地からの放射線の量はわずかなので健康への影響はありません。放射線の健康への影響は、放射線のある・なしではなく、受ける放射線の「量」が問題となります。私たちは、大地から沢山の恩恵を受けています。自分たちの住んでいる町の環境や自然について知ることは、とても大切なことです。

自然放射線の空間放射線量率
ナノグレイ/時 (ミリシーベルト/年)
・実効線量への換算には0.7シーベルト/グレイを使用

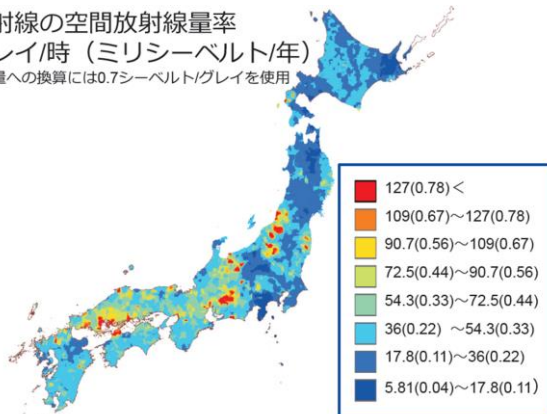


図1 日本各地の大地からの放射線による影響(環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(平成26年度版)」より)

ナノグレイ/時 (ミリシーベルト/年)
実効線量への換算には0.7シーベルト/グレイを使用



出典：国連科学委員会 (UNSCEAR) 2008年報告書、
(公財) 原子力安全研究協会「生活環境放射線」(2011年)より作成

図2 世界各地の大地からの放射線による影響(環境省「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料(平成26年度版)」より)

平成 30 年度 はまぎん こども宇宙科学館・夏休み特別企画 「自由研究ラボ」環境自由研究 報告

実行委員 小林信雄、田口繁雄

今年度の夏休み特別企画では、当会から 7 月 26 日（木）～8 月 18 日（土）の間に 7 教室を開催しました。これらの教室には 250 名を超える応募があり、133 名が参加しました。講師は延べ 42 名で支援しました。

今年度は、昨年度に開催した 6 教室に加え、プラスチック素材で自分の表札を作る教室を開催しました。開催教室は「下表」に示しました。和泉川で開催した「水辺の生き物観察会」では、生き物が好きな子どもたちが、水生生物、小魚捕りができるとあって好評でした。獲物はオイカワ、トンボのヤゴ、小エビなど。首都圏の小河川で生き物生態系の理解と水の汚れを測る体験をしました。「水ロケットを作って飛ばす」教室は、小学校の理科室でロケットが飛ぶ原理の説明をした後、ペットボトルでロケット本体を作り、翼などをテープで取り付けて完成。校庭に出て発射実験を行いました。子どもたち

は飛んだ瞬間「ヤッター」と感激でした。昨年より発射成功率が高く 50m ほど飛ばすことができました。発射に失敗もあり、失敗の原因を考え、失敗を克服して成功されることが大切であることを解説しました。森の素材、木の実や木片で工芸作品を作る教室では、森と人と生き物の共生を解説の後、発想豊かなユニークな作品を作って持ち帰りました。段ボールで丈夫な椅子作り、環境地球儀作り、種グライダーを作って飛ばす教室は、工作方法などに改良を加えて開催しました。

これらの教室では、子どもたちが夏休みの遊びの好奇心に触れながら、楽しく環境学習を体験しました。



①川に入って生き物捕りに挑戦



②紙のリサイクルについて解説



③環境地球儀を全員が完成



④水ロケットの発射の瞬間



⑤森の素材でクラフト作品



⑥種グライダーを飛ばしてみる

No.	教室名称	開催日(曜)	講師名
1	和泉川・地蔵原の水辺で生き物観察会	7月 26 日(木)am	吉村美男
2	リサイクル紙で丈夫な椅子を作ろう	8月 7 日(火)am	荒谷輝正
3	環境地球儀を作ろう	8月 9 日(木)am	上田恵一
4	ペットボトルで水ロケットを作って飛ばそう	8月 11 日(土)am	三田重雄
5	森の木エクラフト作りを楽しもう	8月 11 日(土)pm	香川興勝
6	種グライダーを作って飛ばそう	8月 16 日(木)pm	石井 榮
7	プラスチックのリサイクル実験と表札作り	8月 18 日(土)am	長村吉洋



⑦自分の表札作りに挑戦中

平成30年度 はまぎん こども宇宙科学館

洋光台サイエンスクラブ 環境体験教室 報告

実行委員 小林信雄、田口繁雄

洋光台サイエンスクラブの環境体験教室は、7月～9月の間に10教室（シリーズ教室を含め）を実施しました。植物ジュニアレンジャー活動教室は会場を県立「四季の森公園」で開催しました。

今年度の教室は前年度とほぼ同じテーマで実施しました。植物ジュニアレンジャー（4）ではレンジャー2名に認定証を授与し、認定者は全21名になりました。

これまでのレンジャー学習講座を、レンジャーの実践活動を意識した授業内容の教室にステップアップして、教室会場を県立公園で実施しています。会場はシラカシなど生態系豊かな「四季の森公園」。植物の在来種と外来種、温暖化の影響など実践授業を実施しました。レンジャー活動（2）の教室は「新杉田公園」の予定でしたが大雨警報のため開催を中止しました。見えない空気の実

では、乗用車の排気ガスを採取して化学分析を体験しました。八重のかざぐるま作りでは、自然素材の竹軸やドングリを用いて4枚と8枚羽のかざぐるまを作りました。大豆を育てる親子教室では、大豆の歴史などを学び、小鉢に種蒔き体験をして持ち帰りました。水飲み鳥は、水飲み動作の微妙なバランスを調整して、繰り返す水飲み動作を楽しみました。人工の雲作り教室では、自然の水循環や生命と水の関係性を学び、アースボールで世界の海と陸の関係を確かめた後、上空に白く浮かぶ雲を、手のペットボトルの中に人工的に作りました。



①見えない空気の実験



②植物の成長競争などを観察



③親子で大豆の種蒔き体験



④かざぐるま作りに挑戦



⑤植物の在来種などを観察



⑥2羽の水飲み鳥が水飲み作動中

No.	教室名称	開催日(曜)	講師名
1	見えない空気を調べる化学実験	7月1日(日)	長村吉洋
2	植物ジュニアレンジャー(4)、(5)	7月7、21日	吉岡嗣二郎
3	大豆はスゴイ! 大豆を育てよう(親子教室)	7月8日(日)	柳川三郎
4	「八重のかざぐるま」を作ろう	7月14日(土)	品川高儀
5	植物ジュニアレンジャー活動(1)、(2)、(3)	9月1、15、29日	吉岡嗣二郎
6	水飲み鳥を作ろう	9月8日(土)	石井 榮
7	人工の雲を作ろう	9月9日(日)	柳川三郎



⑦アースボールを使った授業



「第25回 市民環境活動報告会」予告

実行委員長 田口繁雄

平成30年度「第25回 市民環境活動報告会」を右記の予定で開催します。恒例のこの報告会は、環境保全活動を自発的に行なっている方々へ、成果発表の機会を提供し、市民活動の輪を広げることを目的に開催しています。

今年度のメインテーマは(仮称)「環境活動SDGsと共に」～環境再発見～です。

環境活動の成果発表を希望される方は発表の準備をお願いします。発表者の募集要項は11月初旬に発行予定です。

昨年度は生物多様性をメインテーマに開催し、環境活動の新たな取り組みやこれまで実施してきた活動の成果など6テーマについて報告がありました。ポスターセッションも6テーマの出展がありました。出席者は80名。質疑応答など盛況でした。

- 開催日時：平成31年3月2日(土) 12時～17時
- 基調講演：気候ネットワーク東京事務所 桃井貴子所長
- 開催場所：かながわ県民センター 2階ホール(横浜駅西口)
- 主催：第25回 市民環境活動報告会 実行委員会
- 後援：神奈川県(申請予定)

第24回 市民環境活動報告会



写真は、昨年度の市民環境活動報告会の会場と発表者

神奈川工科大学共催 中津川生きもののしらべ教室

水環境部会長 吉村美男

神奈川工科大学と当会が共催する「中津川生きもののしらべ教室」が「調べてみよう身近な環境」と題して、8月8日(水)、16日(木)の両日で開催されました。

この教室は、厚木市内の小学生や保護者に身近な河川環境に触れ、生き物採取などの体験を通して自然保護への関心を高めてもらうため恒例開催しています。

初日の8日は、台風13号来襲のため川での生き物採集を取りやめ、大学構内での座学に変更しました。参加人数は小学生と幼稚園児の26名、保護者22名。大学と環境科学センターの研究員から、生きたエビやザリガニを前に生態の説明を受けた後、手で触って感触を確かめました。学生からは、水の汚れ検査の方法「pHパックテスト」と「COD分析」の指導を受けました。

当会からは、「つかめる水」の化学実験を行いました。子どもたちは、化学反応の不思議さを体験し、水玉を手でつかんだ感触に感激した様子でした。

次週の16日は、連日の雨で中津川上流の宮ヶ瀬ダム放流により増水のため、急遽中津川支流の小鮎川の下子鮎川橋付近に調査場所を変更して生き物採集を行ないました。この日の参加は小学生と幼稚園児26名、保護者32名、講師陣20名。8班編成で講師2名が付き添い、保護者も一緒に川に入って生き物捕りに挑戦しました。捕獲した生き物はアユ、カワムツ、オイカワ、アブラハヤ、ヤゴ、トビケラ等。大学に持ち帰って研究員の説明を受けました。この講座には、112名の申込みがあり、例年、夏休みの子供たちに大人気の野外教室です。



生き物を観察し、触ってみた



子どもと保護者一緒に生き物捕りに挑戦



捕れたよ!

地域図書館 de YES (ヨコハマ エコ スクール)

エネルギー部会長 鈴木勝男

7月26日(木)、横浜市港南図書館で、「なつやすみ工作・実験教室」が開催され、エネルギー部会員が講師を務めました。この教室には、事前に参加申し込みをした小学1～3年生20名全員が参加しました。始めに、エコかるたでウォーミングアップを行いました。エコかるたは学年別の3グループに分かれてグループ毎に札取りをしました。どのグループも手が痛くなるほど熱心に札を取りました。

次は発電実験、①手回し発電で40W電球つくかな? ②風力発電と太陽光発電、③水素燃料電池自動車の3種類を体験しました。手回し発電と風力発電は、実験でパワーを要するので、エコかるたに続き、子どもたちは熱くなって挑戦しました。続いて、今回低学年向きに編集した「省エネってどんなこと?」のスライドを見ながら、省エネについて少しだけ理解してもらいました。最後に一番楽しみにしていたソーラーオルゴール工作を行いました。

今回の参加対象は保護者の同伴無しの小学1～3年生でしたので、若干心配しましたが、スタッフの丁寧な指導で全員が時間内に完成しました。低学年には盛沢山の内容でしたが、ア



エコかるた(上)とオルゴール(下)を楽しむ子どもたち

ンケートでは、ほぼ全員が「楽しかった」と回答してくれました。夏休みの子どもたちが好奇心をもって授業を楽しんでくれたことが伺えました。

ひらつか環境フェア 2018

“自然から学び、ミライにつなごう”

実行委員長(グリーン部会長) 柳川三郎

恒例の「ひらつか環境フェア2018」を7月21、22日(日)の両日に、平塚市役所多目的ホール、ららぽーと湘南、東京ガスライフ湘南の3会場にて開催しました。参加者は1,665人とこれまでより増加し盛況でした。

出展は、市民活動団体や事業者、大学、行政が行い、環境教室は25団体が参加、パネル展示は21団体と東海大学チャレンジセンターからソーラーカーがあり、日産自動車からは電気自動車(日産リーフ)の無料試乗体験会が行われました。

今夏の異常な暑さで21日の出足は悪かったが22日は市

役所会場とららぽーと会場へ暑さにもめげずにたくさんの人たちが来場してくれました。

当会からは、伝統工芸の紙すき、省エネ、ソーラーオルゴール、呼気で自分持ち上げ、八重のかざぐるまの5体験教室が参加しました。参加者からの声は、工作がたのしかった、子どもの夏休みの学習にちょうど良かった、毎回、楽しませていただいています、いろいろと体験ができてよかった、楽しく学べた、興味深かったなどの評価を受けました。



「つかめる水」作りに挑戦



「八重のかざぐるま」工作



「ソーラーオルゴール」工作

化学物質の有害性を調べる(4)

安全管理担当 濱辺謙吉

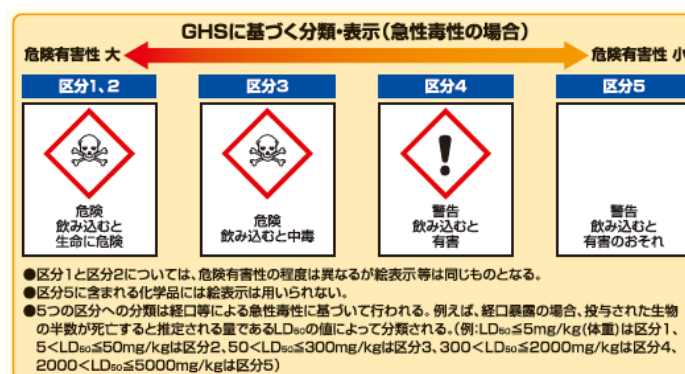
今回は有害性の内、「毒性」の強さについてお話しします。毒性とは生物の生命活動に不都合を及ぼす性質で、その性質を持つ物質を毒物と言います。日本では毒物及び劇物取締法によって、毒性を持つ物質の毒性の強い順に「**特定毒物**」「**毒物**」「**劇物**」に定義されていますが、本稿では一般化学物質の毒性について述べます。

一般化学物質の毒性の評価は、毒性の強い順に急性毒性、亜急性毒性と慢性毒性に分けられています。急性毒性は、ラット等の動物に当該物質を1回又は短時間投与し、14日以内に死亡が観察された場合、亜急性毒性は28日間連続で経口投与して3カ月以内に死亡や中毒症状等が現れた場合。慢性毒性は12ヶ月以上連続で経口投与して生態に変化が現れた場合に該当します。

急性毒性の強さはLD50（本シリーズ(2)参照）の多寡で表され、GHS（本シリーズ(3)参照）では強い方から区分1～5まで定義されています。最も急性毒性が強い区分1はLD50が5mg/kg以下のもの、区分2は5mg/kgより多く50mg/kg以下、区分3はより多く300mg/kg以下、区分4は300mg/kgより多く

2,000mg/kg以下、区分5は2,000mg/kgより多く5,000mg/kg以下です。

一般的に知名度が高い物質とそのLD50を挙げると、最強の毒素はボツリヌス菌が産生するボツリヌストキシンが0.0003μg/kg、フグ毒のテトロドトキシンが10μg/kg、青酸カリと和歌山毒物カレー事件で使われたと言われる亜ヒ酸が10mg/kg、モルヒネが120mg/kg、塩化ナトリウムは3,000mg/kg、エチルアルコールは8,000mg/kgです。



環境省「GHS 化学品の分類および表示に関する世界調和システムについて」より抜粋

横浜市泉区「親子で楽しむ環境体験教室」

代表理事 田口繁雄

横浜市泉区の子ども会育成指導者連絡協議会主催による恒例の「親子で楽しむ環境体験教室」が8月18日(土)泉区役所の1階フロアにて開催されました。当会はこのイベントに恒例参加しており、今年も3部門の体験コーナーを出展しました。エネルギー部会から「自転車発電」「節電家族」「照明比較」。自然環境部会から「八重のかざぐるま作り」。紙すき担当からは人気の「和紙のハガキ作り」を出展。参加者は親

子13組。自転車発電では風船を大きく膨らませようと子どものペダルこぎを親が手伝う場面もありました。照明比較ではLEDの節電効果を体験。かざぐるま作りでは自然素材の竹やドングリで八重のかざぐるまを作り、走りながら回しました。紙すきでは植物ケナフで和紙のハガキを作り日本の伝統工芸を体験してもらいました。最後は環境クイズ。これらの体験を通して夏休みを親子で楽しみながら環境への関心を深めてもらいました。



自転車発電で風船づくり



八重のかざぐるまが完成



最後に環境クイズで体験教室を振り返り

～ 部会活動に参加して

Club Lifeを楽しもう～

環境活動 Information (11月～来年1月)

■教室・イベント情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	開催担当部会
■手作り顕微鏡でミクロをのぞいてみよう「気孔編」(洋光台サイエンスクラブ)	11月10日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	廃棄物・自然環境部会
■ケナフの紙すきでハガキ作り(Think Eco ひらつか)	11月10日(土)	10:00～14:30	横浜ゴム(株)平塚製造所	会員
■環境地球儀を作ろう(環境学習リーダー養成講座・講師)	11月10日(土)	13:00～15:00	環境科学センター	会員
■実験して考えよう、温暖化防止と省エネ(かながわ環境教室)	11月15・16日	8:45～12:15	海老名市海老名小学校	エネルギー部会
■ごみは宝の山(校外学習・秦野市立本町小学校)	11月16日(金)	13:00～15:30	環境科学センター	廃棄物・自然環境部会
■どんぐりを育てよう「親子教室」(洋光台サイエンスクラブ)	11月17日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	グリーン部会
■手作り顕微鏡でミクロの世界をのぞいてみよう(ジュニアエコリーダー講座)	11月17日(土)	10:00～12:00	厚木市役所	廃棄物部会
■発電・電池体験教室(子どもサイエンスフェスティバル)	11月24日(土)	10:00～15:00	海老名市・ピナレッシ交流館	エネルギー部会
■ケナフの紙すきでハガキ作り(くるりんまつり)	12月1日(土)	9:00～13:00	平塚リサイクルプラザ	会員
■水質実験教室(水源環境保全・県民フォーラム)	12月1日(土)	10:30～16:00	厚木市市民交流プラザ	水環境部会
■環境にやさしい入浴剤を作ろう(洋光台サイエンスクラブ)	12月2日(日)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	会員
■種グライダーで生き物の不思議を学ぶ(洋光台サイエンスクラブ)	12月8日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	廃棄物・自然環境部会
■ソーラーオルゴール工作教室(いそご こどもエコフェスタ)	12月9日(日)	10:00～15:00	磯子区役所	エネルギー部会
■植物のふしぎ発見(子どもサイエンスフェスティバル)	12月15日(土)	10:00～15:00	横須賀市文化会館	自然環境部会
■環境ってな～に？自然の不思議大発見(かながわ環境教室)	1月18日(金)	10:00～11:45	横須賀市立養護学校	廃棄物・自然環境部会
■水のかたさを調べる化学実験(洋光台サイエンスクラブ)	1月19日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	会員
■呼吸で自分を持ち上げる(子どもサイエンスフェスティバル)	1月19日(土)	10:00～15:00	相模原市立青少年学習センター	会員
■ふしぎな、不思議な種の世界(洋光台サイエンスクラブ)	1月26日(土)	10:00～12:00	はまぎんこども宇宙科学館	自然環境部会
■大切なエネルギー(ジュニアエコリーダー講座)	1月26日(土)	10:00～12:00	厚木市役所	エネルギー部会
■大切なエネルギー、私たちにできるエコ(かながわ環境教室)	1月29日(火)	8:50～12:20	大和市立深見小学校	エネルギー部会
●定例部会情報	開催月日(曜)	開催時間	開催場所	部会長
●エネルギー部会	11月19日(月) 12月17日(月) 1月21日(月)	(勉強会 15:00～) 16:30～17:30	県民センター会議室	鈴木勝男(桑原 清)
●自然環境部会 ●廃棄物部会	11月21日(水) 12月19日(水) 1月16日(水)	15:00～16:00 16:00～17:00	県民センター10階FS	吉田和史 石井 榮
●グリーン部会 ●水環境部会	未定	—	—	柳川三郎 吉村美男

連載 会員活動紹介 Club Life



事務局だより

武澤研二

【石けん推進活動など】

会員 飯田 富佐江

私は、環境保全活動を始めて20年ほどになりました。幼い頃から、野の花や虫が大好きで、自然の中で遊びました。私が住む南足柄市は自然が豊かと思われそうですが、当時のれんげ畑や水田の宅地化が進みほとんど見られなくなりました。子どもたちには、アトピーやアレルギーが多くなり、遺伝子組み換えやクローン情報など、これで、良いのか？と感じるようになりました。そこで、生活クラブで環境委員になり、独自の委員会を立ち上げ、メダカの観察会、ごみ問題の講座や大気の二酸化窒素測定などに取り組みました。環境関係について多方面の講座などを受講し、川の生きもの観察のつながりから「環境学習リーダー会」の会員になりました。

今現在、私自身がリーダーになって活動しているグループに「石けんビレッジ」があります。少人数の仲間たちで石けん推進活動や化学物質、エネルギー問題などを県西地域の市町村で開催される環境展に出展しています。また、はまぎん こども宇宙科学館の洋光台サイエンスクラブでは、毎年「環境にやさしい入浴剤作り」などの体験教室を行っています。仲間たちが仕事や介護で環境活動が難しいこともあります。続けていきたいと思っています。

私の信念は、「命を大事にすること」です。物事を決める判断は、そこにあらねばならないと思っています。最たる環境破壊は戦争。平和な暮らしとともに環境を守ってほしい願いながら活動を続けています。



石けんで作った足柄の風景



環境展で作った卵殻ポプリ

■理事会の開催予定

- ・11月8日(木) 14時～17時30分
「かながわ県民センター」705会議室
- ・12月13日(木) 9時30分～12時
県・環境科学センター 会議室
- ・1月10日(木) 14時～17時30分
「かながわ県民センター」705会議室

■環境科学センター 第2回スキルアップ講座

- ・日時：12月13日(木) 13:00～15:30
- ・場所：環境科学センター 会議室
- ・講師：地球環境戦略研究機関 研究員 迫口貞充氏、
蓑輪智子氏
- ・演題：「気候変動の影響と適応～どう伝える？実践編～」
- ・参加希望の方は、下記の環境科学センターホームページから直接お申し込みください。

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/b4f/kankyouakushu/event.html>

■編集後記■

近年、持続可能な開発目標(SDGs)が注目され各分野で議論されております。当会でも理事会などで考察しています。このSDGsは、人類社会の繁栄と地球環境の持続のために目標達成を求めているもの。当会では発足当時から25年間に亘って自然環境やエネルギーなど7部会の構成で環境学習に取り組んできました。当会の活動内容は、SDGsの目標17分野と照らし合わせると、7分野の目標とほぼ合致するものと考えられます。この7分野との関わり、活動の関連性、貢献度などを考察しています。当会は引き続き、当会の環境学習理念を主体的に進めて行くと同時にSDGsの目標達成に貢献してまいります。

小林信雄



特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会 「会報第104号」 2018年10月28日発行

■ 発行者：代表理事 田口繁雄 編集：広報部長 小林信雄

■ 所在地：〒226-0005 横浜市緑区竹山三丁目2番地4 竹山3201-134

■ Web：http://kankyo-leader.org (刷新予定) ・ご連絡、お問合せ E-Mail：npk.leader@gmail.com

◆ 寄付・会費等納入口座：ゆうちょ銀行00230-4-30769 神奈川県環境学習リーダー会

★ ©不許複製：神奈川県環境学習リーダー会

ホームページ

Kリーダー会

検索